

第7回釧路都心部まちづくり推進協議会（準備会）

議事要旨

- 日時：令和2年7月10日（金）14:00～15:50
- 場所：釧路市役所 防災庁舎5階 災害対策本部室
- 出席者：末頁のとおり
- 議事

- (1) 第6回協議会（準備会）の主な意見と対応方針、議事概要
- (2) 事業構想編の構成（骨子）及び策定に向けたスケジュール
- (3) 事業構想編策定に向けた個別検討テーマについて
- (4) その他

議事（2）事業構想編の構成（骨子）及び策定に向けたスケジュール

（高見委員）

RINK釧路まちづくり交通戦略会議では、地元商店会と交通事業者が参画しているが、広域を対象として商売している地元企業、医療福祉系やマンション供給事業者は参画していない。また、郊外に大型SCがあるのは存じているが、都心部にそういった機能を導入する場合に、どのくらいの街区が必要かということを考えることが重要である。

街区のサイズは、その大小によって民間事業者の参入可能性を大きく左右するし、街区設計のベースにもなる。

（高野座長）

このことは非常に重要。事業構想編には、都市計画事業だけではなく、そこに来ていただく民間事業者や開発のことも一緒に考えながら、方針や目標理念を書き込む必要がある。

（高見委員）

先に地区計画を定めることで、特定の民間事業者の参入を促すことも検討する必要がある。

議題（3）事業構想編策定に向けた個別検討テーマについて

（北海道開発局）

L型のバス優先道路の検討について、北大通側は交差点が近接する形状になっていることから、交通解析の検証が必要と考える。

札幌駅北口のような観光バス停車スペースを北側に設ける考え方もある。北側の街区は、現在、釧路市内の観光バスを捌ききれぬくらいの面積があるのか確認すべきと考える。

観光バスの待合スペースの配置を失敗すると、まちなかの良いところを観光バスが占領するような事態が想定されるので、検証されたい。

(松井委員)

区画整理のイメージでは、駅の北側が最小限の事業範囲となっているが、市街地整備をすべきエリアというものを整理してから、最低限ここまではやることが妥当というエリアに落とし込んでいく方がよいと感じる。都心部の開発に協力的な方がいる可能性もあり、また、このような市街地再編は、鉄道高架などの大事業と合わせて実施しないと2度とできないことなので、駅周辺は、権利者が多い大変な場所ではあるが、建物が密集しているエリアの解消も含めてアプローチしたほうがよい。

バス路線の再編はキーポイントと考える。基幹とフィーダーにバス路線を再編することができれば更に効率的な駅前広場の配置が可能となると考えられるので、バス事業者も連携して検討できれば良い。

北大通延伸の線形については、バス優先道路の機能を確保できる線形が望ましいと考える。

(高野座長)

旭川市の事例をみると、駅の中の空間づくりが非常に重要であり、また、旭川駅はイオンと直結していて人が沢山集まってきている。駅前広場に人を集める計画だが、人々は何の目的のために集まるのか整理する必要がある。お祭りやイベントは別として、それ以外の目的でここを通る理由が無いとすれば、民間の商業施設を持ってこることも必要になる。全てを公共空間に設えるのではなくて、民間が開発しやすい街区や動線の設定を考えていかなければならない。

(高見委員)

旭川駅のイオンは、沢山人が居て良いが、建物から人が出てこなくて屋外が閑散とする場面も散見される。ただ一方で、やはり日用品を買うような施設が駅にないと人は集まらない。そう思うと、今の街区の大きさでは大型SCは入らないが、地元由来の食品スーパーや複合施設があるとよい。最初から狙いを定めて、駅周辺に誘導できれば良いと考える。

(高野座長)

地産飲食、地産販売施設として、富良野マルシェなどがイメージに近いのではないか。富良野マルシェは、相当数の観光客も来るし、地元の人も買い物に来ていて、なおかつ、飲食やテイクアウトする人も集まってきている。そういう施設を公共空間とセットで考えていけるとよい。

また、賑わいとは別の機能として、津波に対する避難所機能を整備するなど、防災・減災について考える必要であると考えます。

(北海道開発局)

札幌市では、災害時に観光で来た外国人が行き場所を失ってしまったという事例がある。釧路市も観光に力を入れているので、災害時に外国人が身を寄せられる場所を何か考えておいた方が良いかもしれない。

(高野座長)

災害が起きた時に、駅前に防災拠点があるというのは安心感につながる。市民の方がこの構想案を見たときに、そういうコンセプトが描かれていた方がよい。

(松井委員)

駅前のオープンスペースについて、検討することは非常に難しい。市民にオープンスペースを整備する価値を熱く語らないと伝わらない。これからの高齢化社会、これからの釧路市民にとって必要な場であること、都心部に特に用事がなくても時間をつぶすことができるような場所があるということの価値を伝える必要がある。このような魅力的な場を創出して、未来の釧路市民に提供したい、それがすなわち釧路市民の幸せにつながることを行政が市民に語りかけて、市民の方々と共創できるようになってくると実現のハードルが下がってくると思う。そこを突き詰めて検討を深めてもらえるとよい。

また、大型SCでなくても、和商市場、イオンや公共施設のサテライトなど、あるいは都心部に不足しているドラッグストアとかを複合化するということも考えられる。さらには、駅前の空間の使い方やアイデアを市民の皆さんと考えていけると良い。

(高野座長)

稚内市では、駅前に再開発で映画館や子どもたちが安心して走って歩ける遊び場、高齢者の住居を整備し、そのような施策で駅周辺に人を集めようとした。人が集まるきっかけは、地域ごとに異なるので、釧路で何が求められているのかを考えていく必要がある。

(高見委員)

人が集まるために、駐車場は必要だが、全ての土地が駐車場になったら誰も来ないという、よく言われる笑い話がある。駐車場経営の採算ラインは固定資産税をペイできるかどうかであり、駐車場はある程度必要だけれど、ある一定以上増えてしまうと採算が取れなくなる。

都心部の土地の使い方を考えていかななくてはいけない。駐車場の供給量がある程度以上になった時には、佐賀市のような芝生広場に転換するなどの工夫が必要かもしれない。

(岡本委員)

現在、公共交通再編実施計画の認定を受けて、令和元年度にステップ1として、西部地区で幹線とフィーダーの棲み分けを行った。令和2年度についても、東部地区の桜ヶ岡と西部地区の鳥取大通で乗り換え拠点の整備を行っていく。

国土交通省との協議において、釧路市の場合は、随時計画を見直しながら公共交通網の再編を行っていくことが認められているので、公共交通の幹線系統のバス運行の仕方も本協議会の議論と再編実施計画を連動させることができると思っている。

以上

第7回 釧路都心部まちづくり推進会議(準備会) 出席者名簿

令和2年7月10日(金) 14:00~15:50

場所:釧路市役所 防災庁舎5階 災害対策本部室

	団体名・所属部署名		役職	氏名	備考
委員	有識者	北海道大学 公共政策学連携研究部	教授	高野 伸栄	(座長)
		日本測地設計(株)	副社長	松井 直人	
		法政大学デザイン工学部 都市デザイン工学科	教授	高見 公雄	
	釧路市	総合政策部	部長	岡本 満幸	
		産業振興部	部長	秋里 喜久治	
		産業振興部	観光振興担当部長	菅野 隆博	(欠席)
		都市整備部	部長	市原 義久	
オブザーバー	北海道開発局	事業振興部都市住宅課	都市事業管理官	福原 英之	
	北海道開発局 釧路開発建設部	道路計画課	道路調査官	角間 恒	
	北海道建設部 まちづくり局	都市環境課街路計画・技術係	主査	深谷 弘明	
		都市環境課区画整理係	係長	大島 吾一	
	北海道釧路総合振興局 釧路建設管理部	事業室道路課	道路課長	新田 和宏	
	北海道旅客鉄道(株)	総合企画本部地域計画部	主幹	野澤 憲士	(欠席)
事務局	釧路市	総合政策部	都心部まちづくり 担当部長	米山 晋司	
		総合政策部都心部まちづくり推進室	室長	吉岡 亨	
		総合政策部都心部まちづくり推進室	室長補佐	山田 智史	
		総合政策部都心部まちづくり推進室	専門員	吉田 良平	
	公益社団法人 日本交通計画協会				